

第7期科学技術・イノベーション基本計画の答申素案へのJEITA意見20260219

一般社団法人 電子情報技術産業協会
 経営企画本部政策渉外部 鈴木久期
 e-mail hisaki-suzuki@jeita.or.jp

No.	該当箇所			意見(理由含め400文字以内)
	カテゴリー (ブルダウンから選択してください)	ページ番号	行数 (記入例 1-4 行目)	
1	全般			当協会でも、第7期基本計画に対して、2025.3.31に第一次提言「産業競争力強化とSociety 5.0の実現に向けて」、2026.1.21に第二次提言（概要）「IT/エレクトロニクス産業の競争力強化と日本の勝ち筋」を公開（ https://home.jeita.or.jp/tech/recommendation/ ）しています。答申素案の内容は、当協会の認識と一致しており、賛同いたします。特に、イノベーションを生み出すための日本全体の社会システムの再構築により、科学・イノベーションのみならず、産業を含めて国際的な競争力を目指すこと、我が国の戦略的な自律性と不可欠性の獲得とを強く打ち出したことに共感します。 留意点：本基本計画がより広く国民に浸透、また一部は経済安全保障や国際競争力の視点から、以下各章にてご留意頂きたい点を具体的に記しております。何卒ご勘案頂けますようお願い致します。
2	第1章1. 現状認識	4	脚注	「経済社会課題」は、「経済・社会課題」あるいは「経済及び社会課題」と表記した方が良いと存じます。
3	第1章3. 目指すべき未来社会	11	3行目	「こうした科学技術の力により、経済的な豊かさだけでなく、質的な豊かさ」「こうした科学技術の力により、経済的な豊かさだけでなく、文化的・創造的活動などを通じた質的な豊かさ」としてはいかがでしょうか。 理由：「質的な豊かさ」が指すものについて一定の具体例を示すことで、その趣旨がより明確になると考えます。well-beingの実現において、文化的・創造的活動は人々の精神的な豊かさを育む重要な要素の一つです。科学技術との融合により、体験価値のさらなる向上が期待できます。その意義を明示するため具体的な活動内容として本追記を提案いたします。
4	第1章3. 目指すべき未来社会	11	5行目	「誰もが心身ともに「豊かで」「活力があり」「希望にあふれた」人生を～（後略）」を「誰もが心身ともに「豊かで」「創造的で活力があり」「希望にあふれた」人生を～（後略）」としてはいかがでしょうか。 理由：創造的活動はイノベーションの源泉であると共に、人間が目指すべき未来社会であるwell-beingを実現するための重要な要素であると考えため、本追記を提案いたします。
5	第1章4. 科学技術・イノベーション政策の転換	11	16行目	「デュアルユース技術」に関しては、一般の方にも分かりやすいよう、脚注をつけて用語の簡潔な説明を添えた方が良いと存じます。
6	第1章5. 科学技術・イノベーション推進システムの刷新	13	1行目	「URA」に関しては、一般の方にも分かりやすいよう、略語の簡潔な説明を添えた方が良いと存じます。
7	第1章5. 科学技術・イノベーション推進システムの刷新	13	10行目	「PI」に関しては、一般の方にも分かりやすいよう、略語の簡潔な説明を添えた方が良いと存じます。
8	第1章6. 第7期基本計画の方針	17	3-11行目	7行目を「一般市民の正しく、深い理解と科学技術に関する信頼を獲得」、10行目を「教育・文化・創造的活動等の機会も活用しつつ、様々なメディアでの双方向コミュニケーションを通じた社会的合意形成」としてはいかがでしょうか？ 理由：科学技術コミュニケーションを、単なる知識伝達にとどまらず、双方向コミュニケーションを通じた社会的合意形成に資する取組として位置づけていますが、一般の方々の科学技術への関与が必ずしも具体的に示されていません。教育・文化・芸術・創造的活動等を通じた取組を明示することにより、科学技術を身近なものとして理解し、主体的に関わる機会を広げ、科学技術コミュニケーションの実効性を高め、またSNS等での不正確な情報により科学への信頼が低下する事態も起きており、（広い意味での）メディアをステークホルダーとして加えた正しい「科学技術コミュニケーション」を成立させる必要もあると考えためです。
9	第2章 知の基盤としての「科学の再興」	18	20行目	「研究者の自由な発想に基づく、多様な」を「研究者の自由な発想に基づく、 創発的かつ多様な 」としてはいかがでしょうか。 理由：研究者の自由な発想に加えて、分野横断的な連携や想定外の知の融合を通じて、予期せぬイノベーションが生まれる可能性があるという創発的な研究の特性を明示するため、本追記を提案いたします。
10	第2章3. 多様な場で活躍する科学技術人材の継続的な輩出	23	10-11行目	答申素案では、「また、社会人学生も含めた多様な学生のそれぞれに適した支援となるよう、制度の改善・見直しを行う。」とありますが、より具体的な策に言及していただきたいと考えます。例えば、大学側での統一的な取得支援制度（一定の研究業績や能力を有する社会人を対象とした早期終了プログラムなど）を拡充させるなどの取組みも必要と考えます。 理由：現在、日本の大学院博士課程における社会人学生の割合は増加傾向にあり、2022年度時点で約41.7%（約0.6万人）を占めています。一方で、その増加率は鈍化しており、これに対する施策が求めらるかと考えられます。
11	第2章3. 多様な場で活躍する科学技術人材の継続的な輩出	23	21行目	「科学技術人材の裾野の拡大に向けて、理数系教育の充実」を「科学技術人材の裾野の拡大に向けて、 初等中等教育段階からのAI教育・理数系教育の充実 」としてはいかがでしょうか。 理由：急速に社会に浸透し始めているAIなど、その正しい活用を学び、早期にリテラシーを醸成することが重要であると考えため、本追記を提案いたします。
12	第2章3. 多様な場で活躍する科学技術人材の継続的な輩出	23	27行目	「高等教育段階においても適性や関心に応じて学べる環境を確保するとともに、」を「高等教育段階においても AI等のデジタル技術を活用し、 適性や関心に応じて学べる環境を確保するとともに、」としてはいかがでしょうか。 理由：個々人の発達段階や学びのレベルに合わせて、AI等のデジタル技術を活用し個別最適化された教育を提供することで、理系離れの防止やインクルーシブな教育活動が期待されるため、本追記を提案します。
13	第6章1. 科学技術を通じたイノベーション創出と国際連携強化、国際協力の推進	58	19-21行目	開発技術の実証・社会実装を国際的に進める手法として、より具体的にコンテンツIPについて言及するべきと考えます。 理由：日本が世界に誇るコンテンツIPは、すでに多くのファンを持つ強力な基盤です。この強みを活かすことで、新たな技術やサービスの社会実装を加速できると考えられます。例えば、コンテンツIPとデジタル技術の掛け合わせたサービスを推進することで、日本国内だけでなく、世界的なビジネス展開が期待でき、産業競争力を高めることに繋がります。これらの取組により、デジタル技術の社会受容性が向上し、デジタル技術の社会実装の加速が促進されることが期待できます。
14	第2章4. AI for Scienceによる科学研究の革新	25	10行目	「テキスト、画像、音声等をコンテキストや～（後略）」を「テキスト、画像、音声等の フィジカル空間の 情報をコンテキストや～（後略）」としてはいかがでしょうか。 理由：本基本計画の実施年内の科学技術・イノベーションの進展を見据え、取得する情報の範囲に制約を設けないことを明示することが重要であると考えられるため、本追記を提案します。

No.	該当箇所			意見(理由を含め400文字以内)
	カテゴリー (ブルダウから選択してください)	ページ番号	行数 (記入例 1-4 行目)	
15	第2章4. AI for Scienceによる科学研究の革新	26	18行目	「大学や専修学校等において、「文理分断型の学び」からの脱却に留意しつつ」の前に「 <u>初等教育段階から育成に取り組み、早期にリテラシーを醸成する。</u> 」を追記してはいかがでしょうか。 理由：急速に社会に浸透し始めているAIについて、大学や専修学校だけでなく、より若年層から正しい活用を学び、早期にリテラシーを醸成することが重要であると考えため、本追記を提案いたします。
16	第2章4. AI for Scienceによる科学研究の革新	26	19行目	「AIに関する教育プログラムの構築支援」を「AIに関する産学官連携による実践的な教育プログラム」としてはいかがでしょうか。 理由：AIの開発・利活用を進める産官学が連携することで、実社会での活用を踏まえた実践的な教育プログラムを提供することができます。これにより、教育内容の実効性を高めると共に、教師の負担軽減や、社会全体で教育に参画する意識を醸成にも資することが期待されるため、本追記を提案いたします。
17	第2章5. 研究施設・設備、研究資金等の改革	27	17行目	・「競争的研究費における機器購入に際し、所属機関や資金配分機関において重複確認を行うなど、その用途を機器の購入から利用料金への計上にシフトしていく」との方針について、電子計算機や、クロスコンタミネーション等によるデータ劣化の心配が少ない計測・分析機器などは共用に適する一方で、特定の設備の独占的利用自体が研究の競争力の源泉となっている場合もあるかと思えます。そのような設備については、共用化を進めることでかえって研究の優位性が損なわれるおそれがあり、共用化には適さないと考えます。 ・したがって、共用化を無条件に優先したり、共用化自体が目的化したりすることがないよう、「重複確認を行う」とのみ記載するのではなく、「重複や共用の可能性を確認する」など、設備ごとの共用の適否に十分配慮することを明示してはいかがでしょうか。
18	第3章 技術領域の戦略的重点化	34	19行目～24行目	「（前略）研究者の自由発想に基づく研究を後押し～（中略）～重要技術を巡る取組の～（後略）」を「（前略）研究者の自由発想に基づく <u>創発的研究</u> を後押し～（中略）～重要技術を巡る <u>戦略的取組</u> の～（後略）」としてはいかがでしょうか。 理由：研究者の自由な発想に加えて、分野横断的な連携や想定外の知の融合を通じて、予期せぬイノベーションが生まれる可能性があるという創発的研究の特性を明示すること、また、日本としての目的・方向性を明確に定めた上で必要不可欠なテーマを戦略的に選定することを明示することが重要であると考えため、本追記を提案します。
19	第3章2. 新興・基盤技術領域	36	19行目	AI・量子・半導体などを将来の国家競争力と経済安全保障を支える基盤技術として位置付ける方針に賛同します。一方、AIの開発力を支える基盤には半導体に加え、高性能先端電子部品が不可欠であり、その重要性を明確に位置付ける必要があります。特に、先端半導体製造技術や光電融合技術などの「半導体・通信関連技術」に「先端電子部品」を追加頂きたいと考えます。 理由：先端電子部品は我が国が技術優位性と高い市場占有率を有する分野であり、競争力および経済安全保障の観点からも重要な特定重要物資です。AIやデジタル技術を支えるキーデバイスとして、半導体とともに電子部品の継続的な研究開発を推進することが、今後の経済・社会・科学の発展に不可欠と考えます。
20	第3章3. 国家戦略技術領域	38	26-29行目	(2)対象領域の①に、AIを支えるデータ基盤関連技術を加えるべきと考えます。 理由：データは、AIとともにデジタル戦略の両輪であり、良質なデータの量的確保が、データ駆動型社会、産業構築において、極めて重要です。日本が保有する良質で大量な産業データの積極的な活用に向けたデータ主権の確立とデータ活用シフトに向け、政策的インセンティブを用意しつつ、「基盤」と「制度」を両輪で整備し、日本の新たな競争力の源泉とするべきと考えます。例えば、国産分散型データ基盤の整備支援として、複数国内ベンダーによる相互運用型分散クラウドの導入を推進しつつ、地政学リスクやサービス停止リスクに耐えうる運用・監査体制を確立することが必要と考えます。
21	第3章3. 国家戦略技術領域	40	14行目	・「革新的な技術」、「予見性が低い領域」の研究開発を行うため、企業が国研や大学、スタートアップと協業することは、その活動を効率化し、リスクを分散する有力な選択肢であると存じます。 ・これを踏まえ、例えば、一定の要件を満たすなどで国から指定を受けた革新的技術の研究する国研や大学、スタートアップに対する企業からのリスク投資に対し、税制優遇などの何らかのインセンティブを検討してはいかがでしょうか。これにより、国研や大学、あるいは将来の成長が期待されるティップテックスタートアップに民間からの長期的資金流入を促すことが期待できるのではないかと考えます。
22	第4章1. 国家安全保障に資する研究開発の推進	43	18行目	・デュアルユース技術の優位性を中長期的に維持・向上していくことが不可欠である点について異論はありませんが、そのためには研究開発のエコシステムが機能しているだけでなく、収益性や市場形成を含む経済的なエコシステムが成立していることも不可欠であると考えます。したがって、エコシステム構築を支援するだけでなく、経済的なエコシステムの成立を政府が主導的に後押しする施策についても検討されては如何でしょうか。 ・例として、技術主権と産業競争力の確保という観点にも立ち、個々のプロジェクト支援にとどまらず、「10～20年スパンの長期コミットメントの下で、厚みのある産業エコシステムを構築する」といった方針を明確に掲げることも考えられます。そのうえで、「ナショナルチャレンジ」等の施策を通じ、「点」としての個別技術ではなく、「面」としての産業基盤・市場全体の強靱性を追求する姿勢を示す等もあるかと考えます。
23	第5章1. 産学連携の推進・世界で競い成長する大学の実現	50	11行目	修正案：「（前略）我が国において科学が文化となることを目指す。」に続けて「 <u>あわせて、科学技術が生活の隅々にまで浸透し、身近な文化・創造的活動を通じてもたらされる恩恵を、国民が実感できることも重要である。</u> 」という一文を追記してはいかがでしょうか？ 理由：本計画は、基礎研究や安全保障等の重要性を示している一方で、科学技術が国民一人ひとりの生活の中でのような価値として実感されるのかについても、一定の記述がされているものの抽象的な面があります。「科学が文化となる」という理念を、生活や文化・芸術といった身近な文脈で具体的に補足することにより、国民の理解と共感を得やすくし、計画全体の実効性を高めることが必要と考えます。
24	第5章3. 地域イノベーションの推進	53	2-7行目	地域イノベーションの推進の一環として、地域に密着している中小企業のデジタル化による生産性向上の推進を支援するべきと考えます。 理由：人材が不足している中小企業は、経営者・従業員のAIリテラシー向上、初期投資・コスト負担、法律・規制関連リスク負担といった導入課題に対する、従来よりワンランク上のワンストップ支援策が必要です。そのためには、高度になってきている技術を事業で活用する支援ができる人材の育成と一定量配置が必要であり、官民が一体となり、事業と上記人材を繋ぐフレームワーク/仕組みづくりを進めていくことが重要と思われます。